

ぎふ感染症かわら版



令和8年7月2日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

手足口病の患者が増加しています！

手足口病は、乳幼児を中心に流行する、いわゆる「夏かぜ」の一種です。昨年は大きな流行は見られませんでしたでしたが、2024年は、統計を取り始めた1999年以降で過去最高の患者報告数となりました。

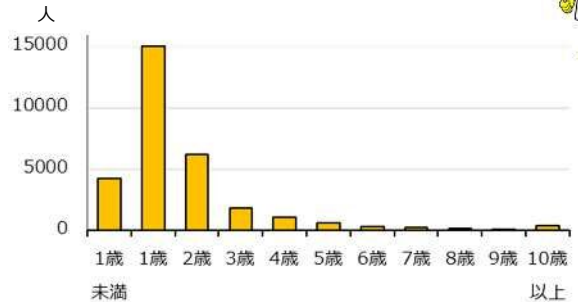
今年は5月下旬から患者報告数が増え始め、第26週（6/22～6/28）の報告では、全県下で1医療機関あたりの患者報告数が2.30まで増加し、特に可茂地域では6.00となり、警報レベル（1医療機関当たり5）を超えました。今後、さらに流行が広がる可能性がありますので、小さいお子様をお持ちのご家庭、保育施設や幼稚園では、十分な感染予防対策をお願いします。

患者発生状況

<1医療機関当たり患者報告数の推移（岐阜県）>



<年齢別の患者報告数（全国）>



2026年第1週～第25週に報告された患者29,908人の内訳

どんな症状がでるの？



- ・感染してから3～5日後に、手のひら、足の裏や甲、口の中などに、2～3mmの水疱（水ぶくれ）を伴う発疹が現れます。
- ・発症者の約3分の1では、発熱がみられます。（多くの場合、38℃以下）

治療方法は？

- ・特別な治療法はなく、対症療法となります。
- ・多くの場合、数日間で自然に治りますが、まれに、重症化することがあります。以下の症状が現れたら、医療機関を受診しましょう。
 - 高熱が2日以上続く
 - 嘔吐
 - 頭痛
 - 視線が合わない
 - 呼びかけに答えない
 - 呼吸が速く息苦しそう
 - ぐったりとしている
 - 水分が取れずにおしっこがでない

集団感染を予防するには？

- 石けんと流水による手洗いをしましょう。（特にトイレの後、おむつ交換の後）
- タオルの共用を避けましょう。
- 排泄物の適切な処理を行いましょう。
- 唾液のついたおもちゃなどは、洗浄・消毒をしましょう。

※症状が治まった後も数週間にわたり便の中にウイルスが排泄され、周りの人への感染源となるため注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

